

ふりかえると 秋山定靖

早いもので、大学を卒業してから11年が経とうとしている。大学では、特にゼミでの時間は論文発表、富士登山などいろいろなことを経験することができ、思い出深いものであった。今の自分に友達はいるかと聞かれると、真っ先に頭に浮かぶのは、この大学で共に過ごした友達であろう。

大学を卒業してからは、輪転機メーカーに就職し、新聞用輪転機の設計の仕事をしている。2年後には、千葉の木更津市へ工場が移転されるため、転職をしなければ、その近辺に引越することとなりそうである。もともと地方出身の私には、この引越しに抵抗はない。最近、会社が不景気なのでそちらの方が心配だ。

私生活においては、今年の2月に子供が生まれ、仕事から帰ると子守に忙しい。その合間の貴重な時間に、趣味である音楽鑑賞(オーディオ)でリラックスしている。オーディオ機器は家族に無理を言って、普通の感覚の人が聞くとびっくりするような金額のものを購入し、一人でニヤニヤしている。

いま思い返すと、私の人生で大学生生活の6年間ほど自由な時間が持てた期間は無い。これからもきっと無いであろう。当時はその期間がどれほど大切かということを理解しておらず、何気なく過ごしてしまった様な気がする。その様な後悔も多少あるが、もっとも楽しかった期間であったことは間違いない。

最近思うこと(駄) 朝倉猛

先日とある研修会において、会社の継承についての話がありました。株式に関わる相続についての話ですが、聞けば聞くほど違和感を覚えました。相続に関しての税金の徴収は会社や株が必ず儲かることが前提で動いていると思いました。

会社の継承には株式を取得する必要があります。それには相続税がかかるんですよね。でも、会社を継承するというのは儲かるからやるというだけではありません。大企業の社長ならやりたい人は大勢いるかもしれませんが、うちのような中小零細の社長をやりたい人ってどれくらいいるのでしょうか？ 儲かりもしない、事業も継続できるかどうか分からない。じゃあ、そんな会社ならば他人に売ってしまえと思われるでしょうが、そんな会社の株など誰も買ってくれません。会社を継続したければ、ただ税金を取られるだけ、って言うのがオチです。そんな金(税金)を払わなきゃならないなら店を閉める、って考えも出てくるでしょうね。実際農家なんかそうじゃないですか。誰も農業をやりたいくない、そうかと言って農地は売り先もありません。相続も物納で農地を国に収めて残りは休耕田なんてことが今後も増えていくでしょうね。そう考えると、会社の株も物納させてくれよって思います。配当ゼロの株ですけどね。

会社は社会の裏返しという考えだと信じてきましたが、最近の考え方だと会社もあくまで金なんだなと思います。資本によりやりとりされ、社会の中であるべき姿の追及というよりは、最近だと株式価値の追求に追いやられているように思います。資本主義社会なわけですから、もちろんそれ

が本来の姿なんだろうと思いますが、私には違和感を覚えてなりません。

日本がこうなったのは社会党が衰退したのが原因だろうと私は思います。昔は経営者側と労働者側それぞれが一生懸命納得できる場所を探していたように思います。それこそ日本国家のためを考えてですよね。今の政治は世の中のためというより自分のために動いているようにしか思えませんね。政治とは「民意の総意」で決められるべきものだと思いますが、最近のようにそれだけで決まってしまうのも問題だと思いました。参議院の選挙方法を有識者等で集められるようにしたほうが良いのではないかと思います。政治としては共産党が言ってることはめっちゃくちゃだと思いつつ、政治家としてはいちばん筋を通しているように思います。税金は金持ちが払え！もある意味納得できる意見です。そうなればもちろん税金を自由に使わせろ！となるでしょうけど、それに納得ができるのかどうかですね。

水戸黄門は第39部だそうです。同じようなネタでここまで続いているのは不思議ですが、何か日本人の心をつかんでいるのでしょうか。「皆が幸せ」というのが日本人の本来の心なのではないでしょうか。

安部晋三総理は「美しい国日本」というスローガンを掲げました。私はスローガンをあげたこと自体はとても良いことだったと思います。アメリカにはイメージとして「ドリーム(夢)」があります。ちなみに日本国憲法の前文の最後には、「日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。」とあります。恥ずかしながら私も日本国憲法に何が書いてあるかなんて最近までよく分かっていませんでした。読むと素晴らしいことがたくさん書いてあります。私は学校でもっとよくこれを教えるべきじゃないかと思いました。自由も公共の福祉のために利用できるものであって、公共の福祉になりえない自由の繁用はしてはいけないとも書いてあります。日本人が勝ち得た自由とはそういうものなのです。言論の自由を主張する輩がいますが、そのほとんどは憲法違反だと思います。

「皆が幸せ」がたぶん日本人の考える社会じゃないかと思うのですが、今それが難しくなりましたね。

西海ゼミ30周年記念稿 末武照彦

同期から記念稿の依頼を受けてから、既に2週間。本日が×切らしい。度重なる催促メールがそれを物語っている。

今朝はいい天気で、空が透き通っていた。寒さと清々しさが混在している。もちろん眠気は根底には住み着いているが、ふと遠くを見てみると雪をかぶった富士が目に入った。富士山は「古来より霊峰といわれ、富士山を開いたのは、平安末期の1149年(久安5年)山頂に一切経を埋納した富士上人と称された末代(まつだい)であると伝えられている(『本朝世紀』)。」らしい。やはり何か人を引きつける魅力が古来よりあるのだろうか。冬の富士は奇麗でもてはやされるが、私の中では夏の富士がそれに勝っている。西海ゼミ恒例の夏合宿で三度にわたって挑んだ富士登山。「富士山に登らない馬鹿、二度登る馬鹿」を超えた三度は、今でもくだらない自慢である。

さて、とりとめの無い文章になってしまったが、西海ゼミ30周年おめでとうございます。西海教授に感謝。

大学生活を振り返って 白坂祥吾

ゼミの30周年という知らせを聞いて、まだ学生だった頃に開催された15周年記念式典を懐かしく思い出してしまいました。あれからもう10年以上経ってしまったのか・・・と考えてしまうと、何か歳をとったことの寂しさを感じられずにはられませんでした。

「十年ひと昔」と言いますが、ふと、この10年あまりで自分自身何が変わっただろう？とつい考えてしまいます。卒業後、医療機器メーカーに就職してからというもの、日々の業務に追われ、気づくとすでに社内では中堅どころになっている。共働きで、毎日家事もやりながら、子供と遊んだり、毎日慌しく過ごしていると、時間が過ぎるのがとても早く感じてしまいます。

今一度振り返ってみると、ゼミで過ごした3年間は、人生の中でとても貴重な時間でした。あんなに有意義な時間は無かったなど。仕事をしている中で、あの時もっと勉強しておけば良かったと何度後悔したことか。今となっては当時の教科書を引っ張り出して読み返してみることがありますが、恥ずかしい話、習っておきながら身につけていないことが多いことに気づかされてしまいます。

しかし、よく考えてみれば、今の自分の基礎をその時に養え、自分自身をより成長させてもらったのも事実です。先輩も同学年も後輩も皆いい人ばかりで本当に楽しく過ごせた記憶しか残っていません。短い期間ではありましたが、本当に充実した学生時代だったと思います。

西海先生、この度、ゼミ30周年本当におめでとうございます。無事卒業できたことも未だに感謝しております。これからも健康には十分気をつけて、ぜひ頑張ってください。

くれぐれも、私の会社の医療機器にお世話にならないように・・・

